

きづがわしの水道

～安心・安全な生活と快適な暮らしを支える水道～



タッタタワー木津川市および
タッタテクニカルセンター

令和3年度水道事業会計 決算の概要

収益的収支・税抜

(万円)

項目	令和3年度 決算	令和2年度 決算	比較	
収入	給水収益(水道料金)	122,041	122,373	△ 332
	その他(手数料)	582	713	△ 131
	受取利息	0	101	△ 101
	下水道負担金	5,818	5,315	503
	他会計負担金	776	1,392	△ 616
	長期前受金等戻入額	51,356	51,521	△ 165
	雑収益(広告収入等)	485	554	△ 69
	計	181,058	181,969	△ 911
支出	人件費	17,695	16,941	754
	受水費	43,517	42,740	777
	動力費	11,027	10,248	779
	薬品費	451	427	24
	修繕料	7,300	6,438	862
	材料費	159	135	24
	委託料	10,194	10,299	△ 105
	減価償却費	77,750	78,490	△ 740
	支払利息	2,599	2,814	△ 215
	貸倒引当金	1,550	1,700	△ 150
	その他(施設維持費等)	3,843	3,621	222
	計	176,085	173,853	2,232
差引	4,973	8,116	△ 3,143	

資本的収支・税込

(万円)

項目	令和3年度 決算	令和2年度 決算	比較	
収入	加入金	6,960	8,872	△ 1,912
	工事負担金	2,879	4,640	△ 1,761
	一般会計出資金	2,580	1,967	613
	水道事業(開発)分担金	2,953	1,661	1,292
	計	15,372	17,140	△ 1,768
支出	建設改良費	40,892	38,971	1,921
	企業債償還金	10,040	9,946	94
	財政調整基金積立金	2,953	1,661	1,292
計	53,885	50,578	3,307	
差引	△ 38,513	△ 33,438	△ 5,075	

※資本的収支の差額は、過年度留保資金等で補っています。

令和3年度水道事業会計の決算が9月市議会定例会で認定されましたので、その概要をお知らせします。

地方公営企業である水道事業の経理は、収益的収支と資本的収支の2つに区分されます。収益的収支については、水をつくり、ご家庭にお届けするための収支を表したものです。水道料金の収入など年度内に発生するすべての収益や水をつくるのに必要となる費用が含まれ、減価償却費のように現金支出を伴わない費用もあります。また、資本的収支については、水道施設の整備に関わる収支を表したものです。施設整備に要する工事費や人件費、企業債の借入・償還などが含まれます。

令和3年決算の特徴としては、新型コロナウイルス感染症のワクチン接種が進み、一部社会活動が再開はじめたこともあり、水需要が減少しました。このため、収益的収入では給水収益が前年度に比べ、332万円減少しました。収益的支出では受水費が777万円増加しています。受水量では京都府営水道と奈良市水道からの合計で2万7,530m³増加し、483万4,868m³となりました。収入と支出の差引額は4,973万円の黒字となっています。

また、資本的収支では、配水管布設替工事(延長2,290.2m)、舗装工事(面積5,352m²)、吐師受水場のテレメータ装置取替更新工事、相楽西配水池屋根改修及び相楽東配水池耐震補強工事、山城浄水場及び取水井更新のための詳細設計などを行いました。

業務量

項目	令和3年度	令和2年度	比較
年度末給水人口(人)	79,581	79,195	386
年度末給水戸数(戸)	32,353	31,937	416
年間配水量(m ³)	8,589,426	8,637,668	△ 48,242
年間有収水量(m ³)	8,040,861	8,067,738	△ 26,877
有収水量率(%)	93.61	93.40	0.21
給水人口1人当たりの年間有収水量(m ³ /人)	101.04	101.87	△ 0.83
給水原価・税抜(円/m ³)	155.12	151.63	3.49
供給単価・税抜(円/m ³)	151.78	151.68	0.10
料金回収率(%)	97.85	100.03	△ 2.18

次に、業務量から見た経営分析を説明します。

年間有収水量は、前年度に比べ4万8,242m³と減少しました。この要因は、新型コロナウイルス感染症のワクチン接種が進み、一部で社会活動が再開しはじめたことによるものであると分析しています。このことは、給水人口が386人増加していることに対して年間有収水量が減少していることに表れています。

また料金回収率は2.18ポイント減少しています。この要因は、受水費、動力費、修繕費などの増加及び有収水量の減少により、給水原価が上昇したことによるものです。

企業債の状況

(万円)

区分	令和3年度末	令和2年度末	増減
企業債残高	160,916	170,956	△ 10,040
うち旧簡水債の交付税分(一般会計出資金)	43,198	45,125	△ 1,927
差引(実質残高)	117,718	125,831	△ 8,113

将来世代への負担を先送りしないために、企業債の実質残高が14億円以下となるよう経営を行っています。

企業債は、水道施設を建設するための財務省や地方公共団体金融機構からの借金です。旧簡水債の交付税分を除いた企業債の残高は、令和3年度末で11億7,718万円となります。

今後も、将来を見据えた経営基盤の強化に努めます。



財政調整基金の状況

(万円)

令和3年度末	令和2年度末	増減
348,265	345,312	2,953

水道事業会計の財政調整基金は、開発による水道事業分担金収入の2,953万円全額を積み立て、令和3年度末で34億8,265万円となりました。

貸借対照表 資産の部

(万円)

区分	令和3年度	令和2年度	増減
有形固定資産(水道施設等)	2,504,216	2,544,828	△ 40,612
無形固定資産	84	84	0
投資(財政調整基金)	348,265	345,312	2,953
現金預金	288,901	286,985	1,916
未収金	24,747	32,347	△ 7,600
貯蔵品	2,020	2,021	△ 1
資産合計	3,168,233	3,211,577	△ 43,344

貸借対照表 負債・資本の部

(万円)

区分	令和3年度	令和2年度	増減
企業債	160,916	170,956	△ 10,040
修繕引当金	27,293	27,293	0
未払・賞与引当・預り金	37,559	39,219	△ 1,660
繰延収益(長期前受金)	1,388,506	1,433,381	△ 44,875
自己資本金	452,298	449,717	2,581
資本剰余金	1,024,670	1,018,993	5,677
利益剰余金	76,991	72,018	4,973
負債資本合計	3,168,233	3,211,577	△ 43,344

経営戦略(財政収支計画)との比較

区分		R2 決算	R3 決算	R3 計画	比較	R4 計画	R5 計画	R6 計画
収益的 収支 (税抜)	1 水道事業収益	181,969	181,058	170,537	10,521	170,158	170,671	170,482
	1 営業収益	123,086	122,623	115,494	7,129	115,608	116,093	115,727
	1 給水収益	122,373	122,041	114,893	7,148	115,007	115,492	115,126
	2 その他	713	582	601	△ 19	601	601	601
	2 営業外収益	58,883	58,435	55,043	3,392	54,550	54,578	54,755
	1 受取利息	101	0	92	△ 92	83	72	65
	2 財政調整基金繰入金	0	0	0	0	0	0	0
	3 下水道負担金	5,315	5,818	6,206	△ 388	6,189	6,194	6,179
	4 他会計負担金	1,392	776	681	95	653	623	593
	5 長期前受金戻入	51,521	51,356	47,794	3,562	47,355	47,419	47,648
	6 雑収益	554	485	270	215	270	270	270
	1 水道事業費用	173,853	176,085	169,332	6,753	168,907	169,576	172,760
	1 営業費用	170,993	173,453	166,733	6,720	166,524	167,399	170,756
	1 人件費(報酬賃金含む)	16,941	17,695	16,217	1,478	16,329	16,442	16,556
	2 受水費	42,740	43,517	41,611	1,906	41,663	41,830	41,739
	3 動力費	10,248	11,027	10,918	109	10,892	10,903	10,845
	4 薬品費	427	451	403	48	401	399	396
	5 修繕費	6,438	7,300	4,309	2,991	4,309	4,109	4,109
	6 材料費	135	159	141	18	141	141	141
	7 委託料	10,299	10,194	9,112	1,082	9,112	9,112	9,112
8 減価償却費	78,490	77,750	80,380	△ 2,630	80,039	80,825	84,227	
9 その他	5,275	5,360	3,642	1,718	3,638	3,638	3,631	
2 営業外費用	2,860	2,632	2,599	33	2,383	2,177	2,004	
1 支払利息	2,814	2,599	2,599	0	2,383	2,177	2,004	
2 雑支出	46	33	0	33	0	0	0	
当年度純利益(純損失)		8,116	4,973	1,205	3,768	1,251	1,095	△ 2,278
資本的 収支 (税込)	1 資本的収入	15,479	12,419	23,289	△ 10,870	49,258	39,778	24,211
	1 加入金	8,872	6,960	7,315	△ 355	6,309	6,309	6,309
	2 工事負担金	4,640	2,879	4,006	△ 1,127	2,994	641	641
	3 補助金	0	0	0	0	1,000	1,000	1,000
	4 企業債	0	0	0	0	21,980	21,300	13,650
	5 基金繰入金	0	0	10,040	△ 10,040	15,020	7,950	0
	6 出資金	1,967	2,580	1,928	652	1,955	2,578	2,611
	1 資本的支出	48,917	50,932	76,114	△ 25,182	107,300	106,625	80,805
	1 建設改良費	38,971	40,892	66,074	△ 25,182	97,192	97,356	71,631
	2 企業債償還金	9,946	10,040	10,040	0	10,108	9,269	9,174
資本的収支差引		△ 33,438	△ 38,513	△ 52,825	14,312	△ 58,042	△ 66,847	△ 56,594

※水道事業(開発)分担金及び財政調整基金積立金を除く。

令和3年度決算と平成31年3月に策定した木津川市新水道ビジョンの経営戦略(財政収支計画)との比較では、収益的収支の当年度純利益は計画より3,768万円増加しました。

相楽西配水池屋根改修及び相楽東配水池耐震補強工事を実施しました



左の写真は相楽東配水池です。

耐震補強工事として、せん断補強工法を実施しました。補強鉄筋を打ち込むことにより耐震性能が向上しました。

水道水で手洗い、マスク、換気、3密を避けるなど、感染症対策を万全に！

水道水で、
こまめに
手洗いを！



新型コロナに関連する情報は、木津川市HPで確認してください。

[ホーム](#)>[暮らし](#)>[上下水道](#)>[水道からのお知らせ](#)>[[新型コロナウイルス対策など](#)]

令和4年度 日本水道協会奈良県支部・関西地方支部合同防災訓練

日本水道協会奈良県支部及び関西地方支部が災害時において、迅速かつ円滑な給水応援体制を確立するための訓練に参加しました。

参加者：2府4県33事業体（約115名） 木津川市4名参加

◇被災水道事業体

奈良市

◇災害想定

令和4年11月21日（月曜日）8時30分頃、奈良盆地東縁断層帯の活断層帯を震源とするマグニチュード7.5の地震が発生し、奈良市において震度7を観測

○情報伝達訓練

各会員（水道事業体）庁舎内において、地震発生直後から被害状況の把握と各府県支部長へ情報伝達を行いました。伝達は「被害・応援要請情報」（所定の様式）によるメール伝達で、各府県支部長はその状況を取りまとめ、関西地方支部へ同様式を情報伝達するという流れの訓練でした。

○応急給水訓練

被災想定事業体であるロート奈良鴻ノ池パークに集合し、奈良市より応急給水の概要について説明を受け、災害拠点病院給水及び運搬訓練、応急給水訓練を実施しました。

木津川市は、京都山城総合医療センターが被災したという設定で、大阪市、京都市、西宮市と連携し、奈良市平城西配水池から給水車で水を運搬しました。



ロート奈良鴻池グラウンドにて



奈良市平城西配水池での注水

28災、南山城水害をご存じですか？

南山城水害は、昭和28年8月、太平洋上にある台風周辺から本州に停滞する前線に向かって暖湿な空気が流れ込み、今では線状降水帯と呼ばれるようになった大雨が山城地域で発生したことで、天井川の決壊、死者、負傷者、家屋の倒壊、田畑の流失など甚大な被害を引き起こしました。

令和4年11月3日、棚倉小学校において京都府立桃山高等学校グローバルサイエンス部が主催する防災勉強会が開催されました。MBS毎日放送の前田気象予報士をはじめ、近隣の皆様や桃山高等学校、日本気象予報士会の皆様が多数参加されました。勉強会の内容は、阪本教諭による解説、高校生の研究発表、実際に被災された國吉様の講話、前田気象予報士の講演、風化した花崗岩の観察、不動川周辺でのフィールドワークなど大変充実したものでした。

水道でも過去の災害を忘れず、さらに強靱化できるよう山城浄水場の更新などに取り組んでいます。

